



りんご
hankoの
おはなし

さく：リンゴの枝

ここは「やたかの里りんご園」。
300本の仲間がいる、この里で、
わたし、リンゴの枝は生まれました。



ポカポカの春、
わたしの頭は小さい花がいっぱい。
それを「望みの丘」の人たちが
少し残して摘み取ります。
頭がスツクリ。リンゴの花は
どんどん丸くなります。



カンカン暑い夏、
日差しにリンゴの実はバテ気味…。
そんな時、「望みの丘」の人たちが
帽子をかけてくれました。
おかげで元気いっぱい。
じゅくじゅく甘くなります。

まるまる実る秋、
リンゴの実はどんどん大きく、
赤く、甘くなっていきます。
と同時に、もう少しで
わたしもお別れです。



秋の終わり、
いよいよリンゴの実ともお別れ。
「望みの丘」の人たち以外にも、
子ども達が一生懸命ていねいに、
頭の実を取ってくれました。





ブルブル寒い冬、
1年間わたし達を支えてくれた
リンゴの木のために、
わたし達古い枝は、
1つ1つ感謝を込められて
剪定されます。



これでおしまい？

いえいえ、実は
捨てられるはずだったわたし達を
「望みの丘」の人たちが
ハンコとして、新しい役目を
くれたんです。



これからは1年間の
「ありがとう」がたくさん詰まった
「りんごhanko」として、
あなたと一緒に過ごします。

どうぞよろしくお願いします。